



～林と共にある～
林業の再生と振興を図る林業拠点の提案

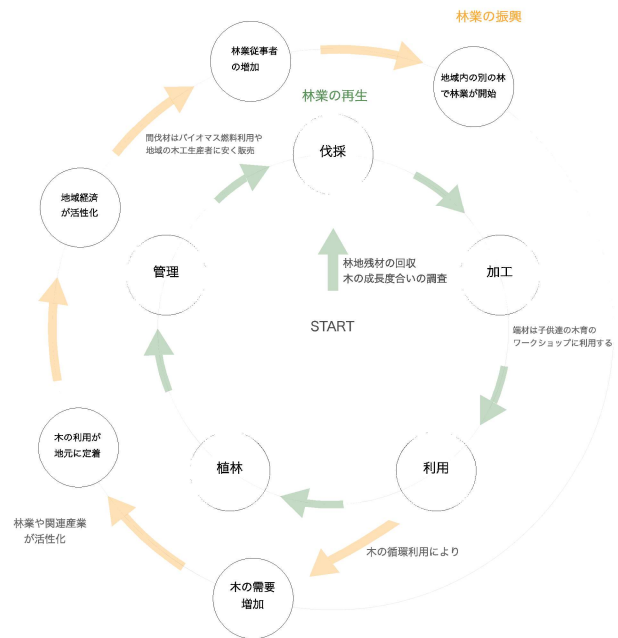


配置図 1:300

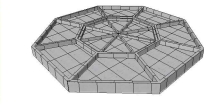
Background
戦後の拡大造林政策によって植えられた木が伐採適齢期を迎える一方で林業従事者の高齢化や後継者不足、整備や伐採、植林を行っても採算が取れないなど現在林業は多くの問題を抱えている。加えて、管理されなくなったことによる荒廃化や間伐材を山の中に放置する林地残材は台風や大雨による土砂災害の被害を拡大させる要因となっている。このような現状を踏まえ、荒廃化した人工林・伐採適齢期を迎えた人工林に注目し、林業の再生と振興を図る新たな林業拠点を提案する。

Location
昔は林業が行われていたが、現在は行われなくなってしまった荒廃したスギ人工林がある秋田県内の山の麓という仮想的敷地を設定した。

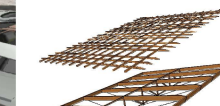
● Concept



● Structure



□□□ 1:500



□□□ 1:500

○林業事務所兼木工製品ショップ

方杖を利用した大断面材のいらない構造としました。柱は敷地の山から伐採された丸太材を用い建物全体は東屋を連想させるものとする。ことや、垂木や方杖など構造部分が良く見える構造にすることで、訪れた人に木造に興味を持ってもらい、そして木の美しさを伝える。また人が集まる・休む場所である東屋に近いものとする。ことで一般の人が入りやすいように、入りたくなるような空間としました。



事務所兼ショップ 内観パース

○製材所

丸鉄鋼と木材によるハイブリッドトラス構造。丸鉄鋼によって一般流通材でも大空間を可能とし、製材を行いやすい広い空間としました。どちらの構造も一般流通材で建てられる構造にすることで、改修・メンテナンスの際に材を調達しやすいようにしました。



□□□□□□□□

● Detail



事務所跡にある奥庭、杉林へと続く道、木を利用した花壇
山への道は一般向けに開放され、杉林の景色を見ながら散歩などができる。



杉林の道の景色
道にはウッドチップを敷き、子供達の林業体験の際にも利用する



事務所兼ショップ外観

外装材には間伐材をパネル化したものを利用し、年月が経ち劣化した場合にはパネルを新たに伐採した間伐材から生産し、交換する。交換したパネルは碎いてウッドチップにして杉林の下の神隠しや燃料として利用する。



ショップ内観

秋田県内及びその地域で採伐されている木工製品。関連する製品(杉の製産)、黨員(ダイニングテーブルや椅子)を販売する。ここでは買っただけでなく、地域内の木工生産者と消費者を繋ぎ、オーダーメイドの製品を作ることでもできる。生産者にはここで商品の売り上げの一部を報酬に還元することに協力してもらい代わりに、新規の会費を安く紹介したり、間伐材を安く提供することにより、地域内での木の山を創出させ、地域材を調達させることで持続可能な林業を形成するとともに、林業と木工を組み合わせたことで採算がとれる林業にしたい。